

平成 28 年度土木学会東北支部技術研究発表会で多数の研究発表をいたしました (2017/3/4)

場所：東北工業大学，URL：<http://www.jsce.or.jp/branch/tohoku/info/giken/H28/index.html>

3月4日（土）に、平成28年度土木学会東北支部技術研究発表会が東北工業大学で開催されました。この発表会は、土木学会東北支部が主催するもので、毎年3月に開催される口頭発表のイベントです。当研究所からは、30件もの研究発表がなされました。

【発表者・タイトル】

※下線：研究所構成員

上原直秀，森口周二，寺田賢二郎ら：個別要素法を用いた落石解析における不確実性の定量化
渡部慎也，森口周二，寺田賢二郎ら：弾塑性損傷モデルによる極低サイクル疲労に関する強度評価のための基礎的研究
大川真里奈，森口周二，寺田賢二郎ら：地層・地形と断層の動きを考慮した中規模領域の表層地盤の変状解析
モヤ・ルイス，マス・エリック：Analysis of building damage mapping technique using seismic fragility functions
大竹拓郎，サッパシー・アナワット，ラチャロット・バーノン，今村文彦ら：過去400年データに基づくグローバル津波ハザード評価
織田征和，越村俊一ら：干渉 SAR 処理を用いた洪水による浸水深の推定：2015年鬼怒川洪水を事例として
千葉周作，越村俊一ら：機械学習による事後画像のみを用いた津波被災地の建物被害の抽出
浅野菜穂，マス・エリック，越村俊一：災害対応におけるマルチエージェント協働モデルの提案
福井謙太郎，サッパシー・アナワット，山下啓，今村文彦ら：東北地方太平洋沖地震津波による養殖施設・アマモ場への被害開数の確定
サッパシー・アナワット，山下啓，ローバー・フォルカ，林晃大，今村文彦ら：2016年福島県沖地震津波の数値解析と現地調査
児玉宗典，越村俊一ら：格子ボルツマン法による津波の陸上遡上計算モデルの検討
ラチャロット・バーノン，サッパシー・アナワット，ローバー・フォルカ，今村文彦：Preliminary source model of the unexpected tsunami in Sendai bay from the 2016 Fukushima earthquake
山下啓，サッパシー・アナワット，今村文彦：Porous Body Model による市街地を対象とした津波氾濫解析モデルの開発
栗林司，有働恵子：直線状の海岸砂丘上の風況特性に関する研究
佐藤兼太，越村俊一：多緩和時間係数型の衝突則を用いた格子ボルツマン法による物体周りの乱流解析
長谷川未来，サッパシー・アナワット，今村文彦ら：東日本大震災での建物被害に基づく推計曝露人口と人的被害の関係
古屋敬士，越村俊一，日野亮太ら：すべり分布の不確実性を考慮した津波発生シナリオの多様性
久松明史，今村文彦ら：円錐型断層モデルによる2011年東北地方太平洋沖地震津波の再現
大平浩之，山下啓，林晃大，今村文彦：海岸林を活用した多重防御の戦略的空間設計
渡部真史，ローバー・フォルカ，後藤和久，今村文彦ら：大型造波水路での巨礫移動実験とその数値モデルの検証
林晃大，山下啓，今村文彦：東日本大震災における仙台湾沿岸の建物被害実績と海岸林分布状況の相関性
マス・エリック，ダス・ルーバル，モヤ・ルイス，越村俊一ら：A proposal for an integrated model of disaster management and socio-economic analysis
牧野嶋文泰，今村文彦：「凶人のジレンマ」として解釈する車の津波避難問題と社会数値シミュレーションの試み
竹居広樹，奥村誠：自動車と歩行者の混在を考慮した津波遭遇リスク最小化避難モデル
佐藤翔輔，今村文彦：石巻市民を対象にした災害情報の認知度および収集手段に関する調査
戸川直樹，佐藤翔輔，杉浦元亮，今村文彦：災害対応訓練を行うことによる「生きる力」の変化に関する評価
平川雄太，佐藤翔輔，今村文彦：津波碑の存在認識に関する基礎研究—岩手県陸前高田市の事例—
馬場亮太，佐藤翔輔，今村文彦：住まいの再建のための復興情報に関する調査—宮城県の被災者を対象として
細正隆，奥村誠：需要内生型最適化モデルを用いた都市間交通ネットワーク形状の検討
大関正博，奥村誠：交通手段選択における非観測要因の考慮方法に関する研究



サッパシー・アナワット准教授



マス・エリック准教授



佐藤翔輔助教



山下啓助教



林晃大助手

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門），山下啓，林晃大（寄附研究部門）